

拓北・あいの里連合町内会

「人と緑が調和する、やさしく支え合うまち」
そんなイメージフレーズの実現を目指して。
北区で一番新しい連合町内会でまちづくり。



私が思う、
北区の魅力・好きな場所

拓北・あいの里地区は、北区の中でも田園風景が広がるエリア。どこを歩いていても緑が目に入ります。利便性もあって自然もあるのが気に入っている理由です。近所をお散歩していると、最近はずまちの中の樹木についつい目がいってしまうんですよ（笑）。

拓北・あいの里連合町内会 北区連合町内会運営協議会
会長 長尾 由紀子 さん

連合町内会の会長を務めながら、民生委員を20年以上続けた。手先の器用さを生かし、さまざまなクラフト作品を作る多彩な面も。



2018年7月に行われた「あいの里あいい祭」で開会の挨拶をする長尾さん

「大都會の札幌にあって、のどかな田園風景も見られる。そこが、お気に入りです」と話すのは、拓北・あいの里連合町内会で5代目の会長として活躍する長尾由紀子さん。30年ほど前、転勤族だった長尾さん一家は、子どもたちの教育環境も考え、あいの里に居を構えました。「あいの里」という名前の響きも素敵ですし、緑が多くて学校や病院、駅も近い。暮らしやすそうなまちだと感じました」と振り返る長尾さん。以来、「あいの里あいい祭」実行委員や民生委員、町内会長などを務め、積極的にまちづくりに携わってきました。

その活動が実り、エレベーターやトイレに手すりや設置されるなど、車椅子の方にも優しい駅となりました。また、駅前の自転車の散乱防止や地域内の危険木パトロールなど、きめ細やかな活動も大切にしています。

2009年から連合町内会に関わるようになり、2022年度からは、連合町内会の会長を務めています。拓北・あいの里連合町内会は、同地区に51の町内会が存在する北区で11番目に誕生した一番新しい連合町内会です。

長尾さんは会長になって以降、こうした活動と並行して、社会福祉協議会との連携を深めたり、北区の連合町内会長の会議や札幌市との意見交換会へ出席したりするなど、外部との橋渡し役も担っています。「地域の声を聞いていると、次々に課題も見えてきます」と長尾さん。「この地域の活性化のため、何ができるのか。線路で隔られたあいの里地区・南あいの里地区の往来を容易にするには何が得策か。私たちだけでは解決できないことは、外部の方々にも相談していかなくては」と、意欲を見せます。

普段は、地域の皆さんがより住みやすい環境をつくるための活動をしています。「高齢の住民も増えているので、JR駅のバリアフリー化が進むよう、関係機関に相談やお願いをしてきました」と長尾さん。

「ここは福祉施設も多く、誰にとっても住みやすいまち。優しい人たちが暮らす、素敵なまちです」と長尾さんはほほ笑みます。「地域に関わってたくさん仲間ができました。大変なことみんなで汗を流すと、充実感に変わります。人との出会いが私の宝です」。